尾崎ブラザーズ、奇跡の殿堂入り

山城4回　尾　崎　　恒

●はじめに

私と二つ年上の兄（恭）は共に京三中に入学し山城高校を卒業した。私達は大学卒業後定年に至るまで企業に勤めたというごく普通のサラリーマン人生を送ったのであるが、ただ学生時代から趣味としてアメリカのカントリー・ミュージックを歌い続けてきた。そして昨年、ケンタッキー（KY）州にある国際ブルーグラス音楽博物館に私達のC

Dが殿堂入りするという栄誉にも恵まれた。

貴重な誌面を割くことは心苦しくもあるが、私達の音楽人生の一端を披露し、音楽が国際共通言語としていかに国際交流ひいては世界平和に役立つかを汲み取っていただければ幸いである。

●カントリー・ミュージックとの出合い

私が小学二年の時、戦争が始まった。そんな頃、父が米国から持ち帰った一枚の紙製レコードにアメリカのフォークソング〝She'll be coming around the mountain〟が収録されており、その軽快な歌に魅せられ、敵国音楽ではあったが、こっそり聞いていた。母もその曲をよく口ずさんでいたが、この歌が私のアメリカ音楽の原点になった。何度歌っても飽くことのないこの軽快な歌は今日でもよく演奏する。

四十五年夏、終戦とともに米軍の進駐が始まった。私は小学六年、兄は京三中の二年であったが、父がオハイオ大学を卒業していた関係で、京都の鳴滝にある我が家には休日ごとにハワイで編成された第八軍のアメリカ兵がギターやウクレレなどの

楽器を携えてやってきた。彼らが来れば我が家はたちどころにハワイアンやカントリーの演奏会場になった。兄も私もそんな家庭環境の中で育ったので、見よう見まねでギターやマンドリンなどの演奏を憶え、裏声も出るようになるまでにさほど時間はかからなかった。

●学生時代

京三中から山城高校に進学した私は兄とともに軽音楽バンドを編成し、学校の文化祭などに出演した。同志社大学に進学してからも学園祭や進駐軍のクラブ等でカントリー・ミュージックの演奏を続けた。

この頃からビル・モンローが主導するブルーグラス・ミュージックを志すようになった。

ビル・モンロー（一九一一年生まれ）はカントリー・ウェスターンの分野で雑然としていたマウンテン・ミュージックを独立させ、三九年彼の出身地ケンタッキーの別名ブルーグラスをバンド名に新しい演奏スタイルのブルーグラス・バンドを結成し、これがブルーグラス・ミュージックの始まりとされている。

●イースト・マウンテンボーイズ時代

就職してからも仕事の傍ら、アメリカン文化センターでアメリカ民謡研究会のメンバーとイースト・マウンテンボーイズを結成し、演奏活動を続け、五八年三月から一二月まで、ラジオ

関東の「ウェスタン・ジャンボリー」のレギュラーバンドとして出演した。五九年五月には第四十四回ウェスタン・カーニバルで釜范ヒロシ、守屋浩達と共演した。

六〇年、キングレコード社から尾崎ブラザーズとイースト・マウンテンボーイズのレコード（ソノシート）が発売された。

その後、事情があってイースト・マウンテンボーイズが解散し、兄もアメリカ勤務になるなど演奏活動を中断せざるを得なくなった。

●再出発

九〇年ごろ、そろそろ定年も近くなり、再び兄と歌うことができるようになった。九二年、黒田美治、小坂一也やジミー時田の一流タレントとの共演も果たした。京都へやってきた憧れのC・ルービンやJ・ハミルトンと共演したのもその頃である。

九四年には「尾崎ブラザーズ・カントリー・ミュージックと共に五十年記念パーティー」を開催し、黒田美治、ジミー時田に加え友人約三百名に参加していただいた。

その後も、銀座ナッシュビルでのライブや聖イエス会教会でのゴスペルなど声がかかれば、こまめに出演した。

〇三年十月、福知山で開催された「タンバ・フクチヤマ・ジャンボリー」には、私達の曾（ひ）祖父に当たる平田八郎が福知山藩の藩士であった縁で招待を受け、参加した。

●国際ブルーグラス音楽博物館に殿堂入り

〇四年の春、アメリカから尾崎ブラザーズのCDがKY州オウエンズボロの国際ブルーグラス音楽博物館に永久保存される事となり、同年六月、その祝賀会をかねた音楽祭「リバー・オブ・ミュージック・パーティー」に参加するため兄や音楽仲間とともに楽器を携えて渡米した。

「私達は十三歳頃からカントリー・ミュージックを始めた。いわば日本におけるカントリーの草分けとして、このパーティーに招かれた」という兄の発言は翌日の地元新聞に掲載された。新聞は更に「パーティーは、会場の外のオハイオ川が夕日で黄金色に染まる頃、尾崎ブラザーズの賛美歌〝Are you washed in the blood of lamb〟の演奏で始まった」と書いてくれた。

館長からは「ブルーグラス・ミュージックは世界共通語として国境を越えた友情を築くことを尾崎ブラザーズが証明してくれた」との紹介があり、音楽祭に参加したことが報われた思いがした。

●カントリー音楽の中心地ナッシュビル

テネシー州ナッシュビルに向う途中、KY州ロジーンにあるビル・モンローの墓に詣でた。近くの生家では俄仕立てのバンドによる演奏が叶った。

ナッシュビルでは七四年に収容人員四千四百のグランド・オール・オープリー・ハウスがオープンするまで、カントリー・ミュージックのメッカとして多くの新曲を生み、ハンク・ウィリアムス、ビル・モンロー、エルビス・プレスリーなどの大スターを輩出したライマン・ホールに立ち寄った。

●京都グランド・オーレ・オープリー

二〇〇〇年二月、日本のカントリー・ミュージック発祥の地とされる京都でカントリー・ミュージック・コンサート「京都グランド・オール・オープリー」が開催された。このコンサートはその後チャリティ・コンサートとして毎年二月第四日曜日に京都テルサホールで開催されることになり、今年で六回を数える。私たちも毎回、ワイルド・ギースの皆さんと共に出演している。

このコンサートは誰でも比較的容易に歌えるカントリー・ミュージックの良さをより広く知ってもらい、次世代にも伝えることを目的の一つとしている。これからも兄と共に力の続く限り出演したいと思っている。